

小學書簡文統古本

大矢透
山口仙松 著述 中

大日本圖書會編			
二	二	三	四
函	函	架	號
三	冊	冊	冊

715

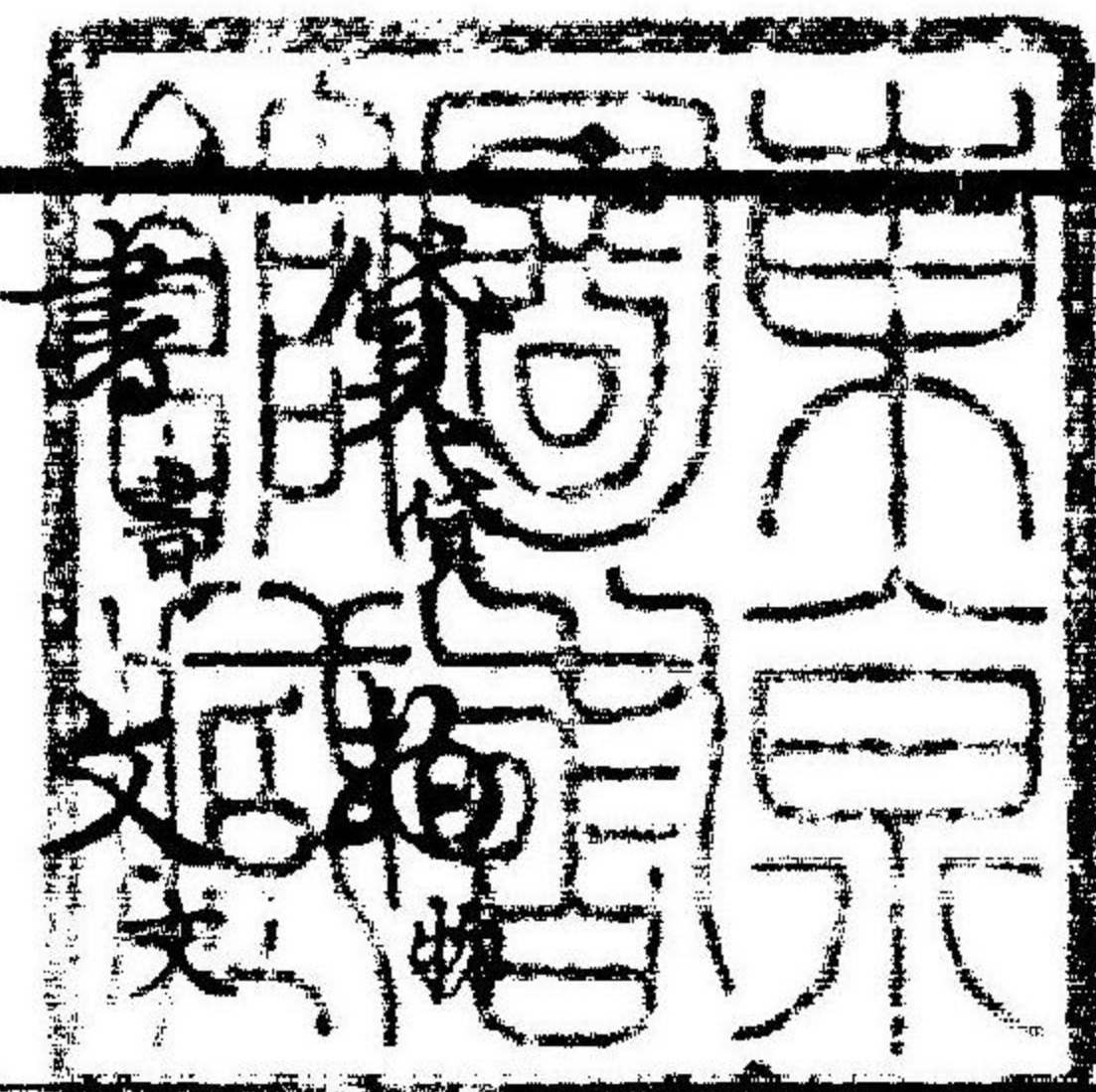
大矢透
山口仙松 同著

尋常小學書簡文範古本三冊

版權免許 明治十九年
十一月廿五日

時習堂梓行

昭和十九年十二月二十一日 2058



尋常小學書簡文範古本中

大矢透
山口仙松 同著

第一節 貸たるおをきいそくする文

例一 貸たる書おをきいそくする文

(話) アゲテ オキ マシタ、 シヨ モツ、 オカエシ
クダサイ マシ

(文) 御用立杞きい書お返

御用立

立返

作文範書

巻第

時習堂

下 度 友 本 繪 繪 貸 貸 圖 圖 先 先 置 置 用 用 者 者
 下 友 繪 繪 貸 貸 圖 圖 先 先 置 置 用 用 者 者
 度 本 地 地 候 差 入 入 此 此 房 房
 度 本 地 地 候 差 入 入 此 此 房 房

下され友い

題 (一)貸—たる繪本をさいそくする文
 (二)貸—たる地圖をさいそくする文

例二 貸—たる小舟をさいそくする文

(話) セン三、アゲテオキマシタ、コブ子、イリヨウデアリ
 マスカラ、ゴノモノエ、オカエシ、クダサイマシ、

(文) 先日差上置い小舟入用_三付

此者へは房—下さるべくい

書 (一)サシアゲオキソロコブ子、ニフヨウニツキ、
 オンカヘシ、クダサルベクソロ、

鋏 鋏

問 問

價 價

小 小

作 作

寺 寺

作文書下

取 (二)センジツゴヨウダテオキソロ、シヨモツ、コ
 ノモノヘオンモドシ、クダサレタクソロ、

(一)貸—たる尺をさいそくする文

題 (二)貸—たるちやうちんをさいそくする文

(三)貸—たる鋏をさいそくする文

第二節 物價を問合せる文

例一 書おの價を問合する文

(話) セウガクサクブンシヨ、イチブノ子ダン
 ナニホドデゴ、サリマスカ、オキ、マウシタイ

(文) 小学作文書寺部代價

何程

何程 何程

相伺 相伺

米 米

お相場 相場

何程 何程

手数 手数

何程

何程にいや相伺度

一白本綿の價を問ふ文
二紺縮緬の價を問ふ文
三干鰯の價を問ふ文

米お場を問合する文

コノゴロ、コメサウバ、ナニホドデゴザリマスカ、オセワナガラ、オシラセ、クダサイマシ、

昨今米お場何程にいや

手数ながらは知らせ下さ

何程

茶炭 茶炭

酒 酒

何事

れ文

一サツコン、コメサウバ、ナニホドニソロヤ、アイウカバイタクソロ
二セウガクサクブンシヨ、イチブ、ダイカ、ナニホドニソロヤ、オンシラセ、クダサレタクソロ

一茶のお場を問合する文
二炭のお場を問合する文
三酒の價を問合する文

第三節 物價を問合する返事

例一 書おの代價を問合する返事

何事

三

何事

尋 尋
付 付
定 定
産 産

五

(話) オタツ子ノセウガクサクブンシヨイチブニツ
イテ、テイカ、サンジツセンデゴザリマス、

(文) 此尋の小学作文書き部

付定價三十拾錢此産ハ

畫(一)オタツ子ノシヨモツ、テイカ、キンサンジツセン
取ニソロアイダ、オンシラセマヲシアゲソロ

- (一) 米お場を問をるゝ返す
- (二) 炭の相場を問をるゝ返す

第四節 物を贈る文

例一 雞卵を贈る文

雞 雞
卵 卵

六

(話) ソマツノシナデゴザリマスガ、ニワトリノタマゴ、ヒト
ハコアゲマスカラ、オウケトリクタダサイイマシ、

(文) 桑末の品々ハ、此も雞卵一箱

進ドハ、此交納下され友ハ

桑 桑
品 品
交 交
受 受

梨 梨
蜜 蜜
柑 柑

葡 葡
萄 萄

梅 梅
花 花

贈 贈

題

- (一) 梨を贈る文
- (二) 蜜柑を贈る文
- (三) 竹の子を贈る文
- (四) 砂糖を贈る文
- (五) 葡萄酒を贈る文

例二 梅花を贈る文

庭 庭
咲 咲
枝 枝
前 前
慰 慰

牡 牡
芍 芍
菓 菓
丹 丹
藥 藥

七

(話) ニワサキノウメノハナガ、サキハジメマシタカラ、オナグサミニ、ヒトエダ、アゲマス

(文) 庭前之梅花咲そめけり

慰のため一枝は目にかけて

(一) ソマツノシナニ、ソウラエドモ、ケイランヒト

取(二) ウメノハナ、ヒトエダ、オンナグサミノタメ、シン

(一) 水仙の花を贈る文

(二) 牡丹の花を贈る文

(三) 芍薬の花を贈る文

(四) 菓子を贈る文

(一) 菊花を贈る文

第五節 物を贈られる礼の文

例一 雞卵を贈られたる礼の文

(話) タイマ、オツカイニテ、ケツコウナ、タマゴヲオクリ

(文) 唯今は仗を以て結搦なる雞

卵は贈り下され有難く頂戴

致し

唯 唯
以 以
搦 搦
頂 頂
致 致
仗 仗
結 結
難 難
戴 戴

菊 菜 送
菊 菜 送

- 題
- (一) 梅花を贈られたる礼の文
 - (二) 菊花を贈られたる礼の文
 - (三) 芍薬を贈られたる礼の文
 - (四) 葡萄酒を贈られたる礼の文

第六節 買物の代金を送る文

例一 砂糖代金をねくる文

(話) サトウノダイキン、ゴエニニジツセン、サシアゲマスカラ、オウケトリ、クダサイイマシ、

圓 貳 貳
拾 錢 錢
落 手

(文) 砂糖代金五圓貳拾錢差上

小岩此落手下さり度

瓦 計
時 計

- 題
- (一) 炭の代金を送る文
 - (二) 瓦の代金を送る文
 - (三) 時計の代金を送る文

例二 石油の内金を送る文

(話) ケサトリキメマシタ、セキユ、ノテツケキン、ジウニエ
ン、サシアゲマスカラ、オアラタメ、オウケトリ、クダサイイマシ、

取 取
手 手
金 貳 貳
圓 改 改
請 取

(文) 今朝取極中石油手附金拾

貳圓差上小岩此改め此請

取下さるべく

醬油

煙草 盆

第七節 物を借る文

例一 煙草盆を借る文

十 (話) マコトニオソレイリマスガ、タバコボンフタツ オカリ、マウシタク、ツカイヲモッテマウシアゲマス、

取書 (一) サトウダイキン、ゴエンニジツセン、サシアゲソロ、アイダ、オンアラタメ、オンウケトリ、クダサルベクソロ、
(二) コンテウトリキメソロ、セキユ、テツケキン、サシアゲソロアヒダ、ゴラクシユ、クダサレタクソロ

- (一) 米の代金をねくる文
- (二) 酒の内金をねくる文
- (三) 醬油の内金をねくる文

誠恐 紙地 屏風 新聞 地球儀 大儀 拝

一 (文) 誠恐入ルへども煙草盆二個
 借致し友仗を以て申上ル
 屏風を借る文
 新聞紙を借る文
 地球儀を借る文

二十 (文) 儀大切の品にこれあるべくしへ
 ども地球儀壹個四角の尺

會	輪	火	膳
會	輪	火	膳
招	讀	鉞	椀
招	讀	鉢	椀

借仕り友の

取書
 (一) マコトニ、オソレイリサウラエドモ、チキエウ
 ギ、イツカハイシヤク、イタシタクソロ、
 (二) オタイセツノシナニ、コレアルベクサウラヘ
 ドモ、タバコボン、ニカ、ハイシヤク、ツカマツリ
 タク、ツカヒヨモツテ、マヲシアゲソロ、

- 題
 (一) 膳椀を借る文
 (二) 画笺を借る文
 (三) 火鉞を借る文

第八節 人を招く文

例一 輪讀會よ友を招く文

遊	君	始	輪	後	今
遊	君	始	輪	後	今
		貴	お	時	日
		貴	相	時	日

三十

(話) コンニチ、ゴサンジカラ、リンドククワイヲハジメ
 マスカラ、アナタ、ドウゾ、オイデクダサイマシ

(文) 今日午後三時より輪讀會

お始めのる貴君なよとぞお入
 来下され友の

- 題
 (一) 用事ありて人を招く文
 (二) かるこ遊よ友を招く文
 (三) 月見よ友をまねく文
 (四) 菊見よ友を招く文

例二 鎮守祭よ客を招く文

明明鎮鎮
守守皆皆
様様臨臨

誕誕
生生

四十

(文) 明日の鎮守祭に付皆の様
に來臨し程待奉り候

取書

(一) コンニテ、リンドククワイニツキ、コミサンジ
書ジ、ヨリオイデノホドマチタテマツリソロ、
取(二) ミヤウニチワ、チンジュサイニツキ、ミナサマ、
ゴニフライ、クダサレタクソロ、

(一) わたさまは客を招く文

題(二) 年忌は客を招く文

(三) 誕生日は家を招く文

第九節 人に招かる返事

例一 輪読會に招かる返事

五十(話) オテガミハイケン、コンニテ、コミサンジヨリ、リンドクク
ワイヲオハシメナサルソウデゴザリマス、キットマイリマス、
(大) 済急紙お見合、今日午後三時

より輪読會に始めの由必

出頭致すべく候

題(一) 用事ありて招かる返事
(二) かるく遊に招かる返事

紙見見
由必必
出出頭頭
遊遊候

祭 祭

鎮 鎮

難 難 系 系 參 參

候 候

例二 鎮守祭に招かる返事

(話) ミヤウニチワ、ケンジエサイニツキ、オマ子ギ、クダサイ
マシテアリカタウゾジエス、キツト、サンジヤイタシエ、

(文) 明日い鎮守祭に付は招き下

され有難く必是系と致是

へく光

- (一) オンテガミハイケン、ケンジエサイニツキ、オマ子ギニアツカリ、アリカタク、ミヤウニチゴ、ヨ
- 取リ、シエツトウイタスベクソロ
- (二) リンドククワイニツキ、オマ子ギクダサレア

明 明 暇 暇 休 休
成 成 万 万 間 間
見 見

第十節 人を誘ふ文

例一 梅見に誘ふ文

- (一) 誕生日に招かる返事
- (二) 年忌に招かる返事
- (三) 月見に招かる返事
- (四) 菊見に招かる返事

リカタク、ユミサンジニハ、カナラズ、サンジヤウイタスベクソロ

(話) ミヤウニチワ、ヤスミニナリマスカラ、ハナミ
イカデゴ、ザリマスカ、オボシメシヲウカイマス、

(文) 明日ハ休暇にお成り梅見

如 如
何 何

産 座
思 思

伺 伺

菖 菖
蒲 蒲

摘 摘

紅 紅
葉 葉

如月よ産座や思召お

伺友ハ

- (一) 芝居見およ誘ふ文
- (二) 花火見およ誘ふ文
- (三) 花菖蒲見よ誘ふ文
- (四) 本の子取よ誘ふ文
- (五) 草摘よ誘ふ文

例二紅葉見よ誘ふ文

十
 (話) ソチコチ人モミダガ、イマサカリダソウデゴザイマス、
 キヤウド、コシニチワ、ヨイテンキテ、アリマスカラ、ヒ
 ルカラ、ケンブツニ、マイリタウゴザイマス、

盛 盛
快 快
晴 晴
午 午
同 同
乃 道

七
(文) 四方の紅葉今を盛の由幸

今日ハ快晴ニ付午後より快

見物同乃致一彦彦

- (一) ヨモノバイクワ、イマラサカリノヨシサイワイ、
- 書 シニチハ、キウカニツキウメミイカバニソロヤ、
- (二) コシニチハ、クワイセイニツキ、ゴッヨリ、モミ
- 取 ガケンブツゴドウダウイタシタクオホシメ
- シアヒウカバヒタクソロ

- 題 (一) 櫻見物よ誘ふ文
- (二) 釣よ誘ふ文
- (三) 桃の花見よ誘ふ文

傳傳 頼頼

植植 傳傳

頼頼

染染

第十一節 演習課題

茶摘手傳を頼む文

田植手傳を頼む文

染物を頼む文

- (一) マコトニ、オツレイリマスガ、アスカラ、チヤツミヲ、ハ
- (二) ジノマスカラ、イチニチ、オテツダイ、クダサイマシ
- (三) タウエガ、テオクレニ、ナリマシタカラ、マコトニ、オツ
- (四) レイリマスガ、オテツダイ、クダサイマシ、
- (五) オセワサマナガラ、コノタンモノ、子ズミイロニ、オ
- (六) ソメ、クダサイマシ、

校校 道道

置置

田道

傳言を頼む文

入校後田道校頼む文

頼み置一事を回合する文

- (一) コノ、シロモメシ、カラクサニ、オツメクダサイマシ、マタイツカ
- (二) コロニ、デキマスカ、コノ、ツカイニ、オハナシ、クダサイマシ、
- (三) コシニチ、ガクカウエ、マイリマシタナラバ、〇〇〇エ、ニヤウニチ、
- (四) ワタクシノウチマデ、マイルヨウ、オハナシ、クダサイマシ、
- (五) ワタクシ、サクジツ、〇〇ガクカウエ、ハイリ、マシタカラ、
- (六) アスカラ、ゴイツシヨニオツレクダサイマシ、

預預

醫師醫師

(五) センコロ、オタノミ、マウシテ、オキマシタコトワ、イカバ、ナリマシタカ、オキ、マウシタイ、

預け置たる物を取よつかえす文

(六) センコロ、オアツケマウシタ、フロシキツミ、コノモノ、エ、オワタシ、クダサイマシ、

醫師を招く文

(七) タビイマ、キウニ、ビヤウニンガ、デキマシタカラ、スグサ、マ、オイデ、クダサイマシ、

急用ありて人を招く文

(八) イソイデ、ゴサウダシ、マウシタイコトガ、アリマスカラ、タビイマ、オイデ、クダサイマシ、

新聞新聞

注

試験試験

及及

不不

入入

新聞紙を注文せる文

(九) オクリ、クダサイマシ、

試験及弟を志らする文

(十) サクジツ、シケン、トゴラリ、ナク、スミマシタカラ、

不系を志らする文

(十一) ワタクシ、コンニチワ、ビヤウキデ、マイラレマセヌ、カ、ラ、ゴシヤウチ、クダサイマシ、

入校を志らする文

イロノオノマズ
シロ

轉轉

世世
関開

知知

錢錢
別別

膳膳
椀椀

轉宅^{テシタカ}知^チらする文

(一) マシタカラ、コノダン、オシラセ、マウシマス

見世^{ミセ}関^{セヒラ}きを^キ知^チらする文

(二) ワタクシ、サクジツ、○マチ、○バンチエ、ヒキウツリ

錢別^{ゼンベツ}を^ヲ贈^クる文

(三) マシタカラ、ゴフイ、マウシマス、

膳椀^{ゼンワン}を^ヲ返^カす文

(四) コノタビ、○エ、オデカケ、ナサルソウデ、ゴザリマス、

畫畫

畫物^{エガモノ}を^ヲ返^カす文

(五) オカリ、マウシタ、ゼンワン、オカエシ、マウシマス、

同返^{ドウヘン}事^ジ

(六) ヤウヤク、ヨミ、オエ、マシタカラ、オカエシ、マウシマス、

(七) ゴヨウダテ、オキマシタ、シヨモツ、オカエシ、ク

花見^{ハナミ}よ^ヨき^キそ^ソは^ハる返^{ヘン}事^ジ

作^{シヤク}文^{ブン}書^{ショ}家^カ

十四
待^{マツ}鳥^{トリ}書^{ショ}家^カ

(廿) ソチコチノ、サクラガ、ヒライタソウデ、ゴザリマ
 (ハ) ス、ヨイアンバイ、コンニチワ、ヤスミデ、アリマス
 カラ、オトモ、イタシマシヤウ

歳暮の文

(九) ソマツノシナデアリマスガ、シオザケ、イツボン、ゴセ
 イボニ、アゲマスカラ、オウケトリ、クダサイマシ、

雨具を返す文

(十) サクヤワ、オタイセツノカラカサヲ、オカリマウ
 シマシテ、アリガタウ、ゾンジマス、コンニチ、ツカ
 イニモタセ、オカエシ、マウシマスカラ、オウケト
 リ、クダサイマシ、

初 初頃 頃

寒 寒未 未

去 去難 難

変 変變 變

此 候

第十三節 春、安否を問ふ文

例一、春の初頃の文

(四) マダ、オサムウゴザリマスガ、オカワリガ、
 (文) ゴザリマセヌカ、

(文) 寒さまだ去り難くは変化

変もこれなくはや

回ド返事

(四) オ、セノトオリ、マダ、オサムウゴザリマスガ、ワタクシ
 (十) カタ、ナニゴトモ、アリマセヌカラ、ゴアンシンクダサイマシ

作...
...

仰仰如如

二
仰せの如く寒氣未た去り

難くい変私方無事といふ
此安心下されなり

春春

三
例三、春の中ナカ頃の文

増増暖暖

四
ソロく アタ、カニ、ナリマスガ、ゴブジニ、
オイデ ナサイマスガ、

お相相栄栄成成

三
日増に暖よお栄け節い

節節無無

三
喜るゝ入らせられけや

末末

例四 春の末スエ頃の文

四
アタ、カニ、ジヨウデ、ゴザリマスガ、ゴキゲンヨ
ウオイデ ナサイマシテ、オメデ名ウジンジマス

暖暖機機

四
春暖の時候にけいとも此機

煖煖能能

煖能は産遊ばされ目出友

存存奉奉

存一奉りけ

題(一)月ト返奉

題(一)月ト返奉

...

...

十六

...

第十三節 夏、安否を問ふ文

夏 夏
初 初

例一、夏の初頃の文

頃 頃

暑 暑

十四 (話) アツサノモヤウニナリマスガ、ミナサマ、ゴ
ブジニ、オイデナサイマスカ

皆 皆

十五 (文) 暑さおもやうーい変皆

無 無

横は無るに入らせられいや

変 変

例二、同一返る

十四 (話) オテガミハイケン、スコシアツイジセツデゴザリマスガ、
ワタクシカタ、ブジデ、ゴザリマスカラ、ゴアシシシ、クダサイマシ

法 御
紙 手

六 (文) 法紙お見薄暑さ節と

兄 見

おとも當方急なくい万

當 當

いあ堵下さるべくい

万 間

例三、夏の中頃の文

堵 堵

十四 (話) ダンク、アツクナリマスガ、オサワリ
モ、アリマセヌカ、

追 追

十七 (文) 追々暑気お募りい處法

氣 氣

處 處

障もこれなくいや

甚 甚 暑 暑
 凌 凌 兼 兼
 折 折 機 機
 産 産 能 能
 遊 遊 秋 秋
 安 安

題一 因ト返事

例四 夏の末頃の文

四(話) ヒドイアツサデ、シノゲマセヌ ジブン、ゴ
 キゲン ヨウ オイデ ナサイ マスカ、

八(文) 甚暑凌き兼折から

機産遊はされ

第百節 秋、あ否を問ふ文

例一 秋の初頃の文

未 未 節 節
 安 全 全
 賀 賀 奉 奉

九十四

四(話) アツサガ、マダヌケナイジセツ、イヨクゴ
 ブジ、オメデタウゾンジマス、

八(文) 暑さ未だ退き兼折

よく凌あ全賀一暮り

例二 因ト返事

十五

五(話) オテガミヲ、ヒライテミマシタ、オセノトオリ
 アツサガヌケナイジセツ、ワタクシワ、ブジ
 ニクラシテフリマスカラ、ゴシンパイ クダ
 サイ マスカ、

八(文) 折見仰せの如く残暑

御 御 状 状
 披 披 仰 仰
 如 如 残 残

暑暑凌凌
 兼節節
 變變暮暮
 間間配配
 秋秋
 能能
 成成
 安安

退き兼節私事變りなく
 暮一居仲間心配下され
 まどく
 題(同ト返事)

例三秋の中頃の文

五(話) アサユウワ、シノギヨクナリマシタガゴヤウ
 スワ、イカッデゴザリマスカ、
 朝夕の凌き能お成り変りあ

何何

於猶
 暮同
 同

否如何よいや

題(同ト返事)

例四秋の末頃の文

五(話) ヒユルジセツ、ヤハリ、ゴキゲンヨウ、オクラ
 シナイマスカ、オウカッイ、マウシマス
 (文) 秋冷の時候於此様能
 於暮一なきれいやお同友
 題(同ト返事)

冬冬

第十五節冬、安否を問ふ文

例一冬の初頃の文

寒お相

三五

サムサノモヤウニナリマスガ、アナタ、マス、く、ゴキ
ゲンヨウ、オイデナサイマシテ、オメデタウゾンジマス、

催様機

文 冬々とお催しに交貴君

嫌能

益市様嫌能入らせられ目

出度

出度存い

存

例二回ト返事

仰仰如如

寒冷冷

儀儀無無

事勤勤

学學

心

四十五

オ、セノトオリ、サムイジセツデ、ゴザリ
マスガ、ワタクシワ、ナニゴトナシニ、ガクモ
ンヌ、イタシヲリマスカラ、ハバカリナガラ、
ゴアンシンクダサイマシ、

文 仰せの如く寒冷の氣候に

い交私儀無事勤學致

し居い冒憚ながらはあ

心下され度い

例三冬の中頃の文

募 募 所 所
否 否 如 如
何 何 哉 哉
何 何
同 同

五十五

(文) 退日寒氣お募りし所由あ
吾如河よけ哉お何友け
題(一)月ト返る

例四 冬の末頃の文

十五

(話) キビシイサムサノコロ、オタクデワ、イヨク
ゴブジニ、オイデナサイマシテ、ヨロコバシ
ウゾンジマス、

嚴 嚴 時 時
尖 貴 家 家
愈 愈 全 全
遊 遊 慶 慶

六

(文) 嚴寒の時希尖家愈は
安全は産遊はされ大慶
の至ふなり
題(一)月ト返る

無 無 沙 沙
法 法

第十六節 無沙法をまぶる文

例一 冬の末頃無沙法をまぶる文

五

(話) ヒサシク、ゴブサタイタシテ、オソレイリマス、
キビシイサムサノジセツデゴザリマスガ、

久 久 無
 沙 沙 紗
 恐 恐 同
 恙 恙 舞
 舞 舞 舞

ゴイチドウ、ゴブジニオイデナサイマスカ
 オミマイマサシアゲマス

(文) 久くは冬は沙法いと恐入
 け厳寒の時節にけいともは
 一同恙なく入らせられけや
 法見舞もよけ

- 題
- (一) 春の中法無何法をまぶる文
 - (二) 夏の末法無何法をまぶる文
 - (三) 秋の末法無何法をまぶる文
 - (四) 冬の初法無何法をまぶる文

記 記 錢
 拭 拭 金
 拾 拾 厘
 蠟 蠟 燭
 壺 壺 箱
 通 通 正
 請 請 取

例一

傳取証

記

- 一金拾武鈔 五拭三本代
- 一金武拾鈔八厘 蠟燭壺箱代
- 一金三拾武鈔八厘
- 右に通正請取也

明治○年○月○日

何某

何誰殿

(一) 本日、より左の金子を交換するとき
は請取証の書方めり

金拾銭 黒砂糖代
金拾五匁 鯉節代

(二) 本日、より左の金子を請取るとき
めり

金五拾匁 帽子 金七代
金五圓式拾五匁 履 金七代
金七拾五匁五厘 蝙蝠傘 金七代

砂 砂 糖 糖
鯉 鯉 節 節
錢 錢
帽 帽 履 履
足 足 端 端
幅 幅
傘 傘

國 穀 陸 社 包
國 穀 陸 社 包
屋 圓 運 薦
屋 圓 運 薦

第十八節送り状

例一

記

一薦包

貳個

- (一) 本日大國屋米吉より穀代金と一七三拾六円支取るときめり
- (二) 本日陸運會社より薦包壹個紙包貳個請取るときめり

右會

大陸運會社より差立申付也

明殿

明治〇年〇月〇日

何某

醬油

何誰殿

題
(一) 本日〇〇へあて陸運より蠟燭或は松節送
るときは送付状の書方め何
(二) 本日〇〇へあて陸運より醬油松五樽
送るときはめ何

例二

覺

覺

琉球 便船 差到 着次 弟改 取也 殿

一琉球包

壹個

本日便船を以て差立申
付到着次第改由受取
下さるべく此也

明治〇年〇月〇日

何某

何誰殿

(一) オボエ、ヒトツリウキウツミ、イツカ、ミギ、
書センセンヲモツテ、サシタテマウシソロナリ

半	萬	陸	蒸	鹽
半	萬	陸	蒸	鹽
紙	枚	運	品	積
紙	枚	運	品	積

取

(二) オボエ、ヒトツ、コモツ、ミ、ニカ、ミギ、リクウシ、多イ
シヤヨリ、サシタテマウシソロアイダ、ト
ウチヤクシダイオンウケトリ、クダサルベク
ツロナリ、

題

(一) 中目〇〇へあて便船まで半紙一萬枚送
るときは送り状の書方めり
(二) 中目〇〇へあて陸運よて酒八樽送ると
きめり
(三) 中目〇〇へあて蒸氣船よて丸の取扱を
積送るときはめり
塩拾貳俵 代金三円六拾貳
米三拾五俵 代金百拾三円七拾五匁

イロ八字引

(イ) 急彌戴頂戴一統幾日 (ロ) 八 驢話甚悞
春晴春雨拜見始 (三) 日 曜日 (ホ) へ 返却 (ト)
殿供共通問合滞 何相成 (チ) や (チ)
近頃近 (リ) (又) (ル) (ヲ) 私私儀私方渡小
生拙宅 (カ) 風方兼借貸貸與貸渡借用家
内唐草忝なく (ヨ) 讀漸く喜讀終用事好

天氣テンキ夕タシカ慥マサニ正頼タシカ及物モノ只今タビイマ多分タビ當今タビイマ禮レ

ソソ簾末マツノ粗ソノ不ミナツツカハス遣都ツ合ガフ子子直直敗敗定定獲獲十十無無

乍長ナガク何寄ナニヨリ示シ示シ爛熳ランマン之之傳取ウケトリ雨アメ天テン鬱ウツ

陶敷タウシク落ラク之シ工工ノノオオ追追送送仰仰置置贈贈恐恐縮縮

至面會イタリメシクワイ出出來来臨リン下下されタラ及及之之快晴クワイセイ菓子カシ

ヤヤ体体暇暇体体業業ママ町待マツ糸益イトマシ廻マシ真マ感カ中ナカ越コシ

糸堂イトダウ出頭シュツトウ政マサシ兼カシ之之輕少ケイシウ遊ユウ覽ラン之之風雨フウウ

不順フジュンの時シ候コウ風フウ呂敷ロシキ包ツミココ之之無ナくク此頃ココノトキ也ナリ

度タビ去ク段ダン具服グフク由ヨ覽ラン入イレレ本ホン日ジツ古コ無ム音オン工工

テテ手本テホン手造テソクリ手テ極キョク手テ後ノチ定價テイカ出来シヨク出立シュツタツ速スイ

送ソウアア雨アメ暖ヌカ藍アイ嵐ラン色イロ相アヒ満ミおオ来キ有アリ縫ヌイくク暑氣シヨキ

相アヒ変カハらラ以イササ様サマ威イカリ揚サカ昨キノフ日ジツ空カラ少シウ糸イト上ウヘ進シム上ウヘ

呈上テイシウキキ君キミ恐オソシ縮シユク之ノ至イタリ体業キウゲイ昨日キノフ急病キフヤク人ヒト工工

緩ユル夕ユフ刻コク之ノ弥ヨシ面オモ倒タタ之ノ砌セキ明日アス之ノ至イタリ急キフ進シム

上ジヤク借用ヨウヨウ出来シヨクタイ出立シツタテ承知シヨウチ通知ツウチ (工) (七) 閑久敷ヒラクヒサシク
 久ヒサ引移ヒキウツリ披見ヒキケン病氣ビヤウキ (モ) 本綿モトス度ド (セ) 世話セワ晴セイ
 天テン先達センダツ而テ過日カワジツ钱別ゼンベツ (ス) 涼備スズミ味少アジク輕少ケイシウ
アシキ

明治十九年十一月二十五日版權免許
 同 年十二月二十日 刻成出版

定價金十元

著述兼
出版人

新潟縣平民

大矢透

東京本郷區東竹町廿五番地寄留

全

山口仙松

茨城縣新治郡冲宿町十壹番地

出版人

寺田新助

茨城縣平民
東京淺草八幡町十七番地寄留

發賣書肆

時習堂

